新・パワースポット

# 巨樹の生命力

ほんの小さな芽から数千年。
しっと動かず、同じ場所に立ち続け、
〝いのち〟の尊厳を放ってきた大いなる生命たち。
森の列島「日本」に粛然と佇む
神々しき巨樹の息吹に耳を澄ませよう。

撮影／吉田繁

## 帝釈寺の欅（たいしゃくじ けやき）

| | |
|---|---|
| 秋田県南秋田郡 | 樹齢／700年 |
| 幹周／9.6m | 樹高／30m |

八郎潟の東に位置する、五城目町の古木。広く張った枝が力強く四方に伸び、堂々たる風貌で帝釈寺農村公園に佇む

# 神宿る巨樹に魅せられて

吉田 繁（写真家）

巨樹を探し求めて世界20ヵ国、2000ヵ所を旅してきた。気づけば、25年もの歳月が流れている。なぜ、こうも巨樹に惹かれるのか？　じつは、撮り始めた頃は、その理由が自分でも漠然としていて、よくわからなかった。

日本では、地面から1・3mの高さで幹周りを測り、太さが3m以上あるものを「巨樹」と規定している。だが、巨樹巡りをしていくうちに気がついたのは、私にとって、必ずしも木の大きさが重要な要素ではないということである。それよりも、佇まいが美しく、生命の尊さや気迫を放つ姿に、魂が揺さぶられる。それをひとつの言葉で形容するなら「神々しさ」だ。そんな木に出会うと、無性に写真を撮りたくなる。

こうした巨樹の周りには、木を慈しみながら、ともに生きている人々がいる。そんな人たちの心はみな温かく、わずかな言葉を交わすだけで安らかな時間が訪れる。

ここ数年になって、ようやく巨樹に魅かれる理由がわかった。巨樹の神々しさと、その傍らで暮らす人々、そしてその木を育んだ空気や水に誘われるのだ。

よしだ・しげる／'58年、東京都生まれ。広告・雑誌　PR誌などの仕事の傍ら、'90年頃から「神々しさ」をテーマに世界中の巨樹や自然写真を撮り続けている。『地球遺産最後の巨樹』『地球遺産　巨樹バオバブ』『巨樹を見に行く　千年の生命との出会い』（いずれも講談社／共著）など著書多数

**称名寺（しようみようじ）の椎（しい）の木**

| 宮城県亘理郡 | 樹齢／700年 |
|---|---|
| 幹周／10.2m | 樹高／14m |

県内最大の椎の木。明応9年（1500年）開山の古刹の境内にある。うねるように空に向かって伸びた幹が圧巻だ

## 子安地蔵尊桂（こやすじぞうそんかつら）

| | |
|---|---|
| 岩手県花巻市<br>幹周／19.6m | 樹齢／800年<br>樹高／22m |

1100年以上前に慈覚大師が植えたとされる。桂の正面に立つ子安地蔵は、陸中八十八箇所の札所の一つとして知られる

## 津谷の大柳

山形県最上郡
幹周／7.7m
樹齢／130年以上
樹高／22m

戸沢村津谷にある大柳。最上地方は巨樹に満ちた里で、その数160本超、日本一といわれる巨木は10種類以上もある

## 燭台樅（しょくだいぶな）

秋田県にかほ市
幹周／4.3m
樹齢／不明
樹高／不明

鳥海山麓、中島台レクリエーションの森にある奇形巨大ブナ。西洋の蝋燭立てに形が似ていることからこの名が付いた

巨樹の生命力

## 善養寺（ぜんようじ）の大榧（おおがや）

東京都世田谷区
幹周／5.3m
樹齢／600年
樹高／23m

多摩川に近い、世田谷の閑静な住宅街。どっしりとした幹に勇壮な枝を伸ばした巨大カヤが、境内にそそり立つ

## 東北山（ひがしきたやま）の千本松

長野県松本市
幹周／5.2m
樹齢／200年
樹高／28m

松本市北部の山間に、美しい傘状の樹冠がひと際目を引く。アカマツの一種、ウツクシマツで、他に類を見ない美松だ

写真集
『日本遺産 神宿る巨樹』
The Marvelous trees in Japan
（撮影／吉田繁、文／蟹江節子、3800円＝税別）は、
1月30日に講談社より刊行